

今月の安全運転管理

冬道は 速度落として スリップ防止

①日常点検を基本とした車両管理を徹底しよう。

- 冬道の危険箇所の周知とスリップ事故防止の指導
- 冬用車両点検の実施と車載装備品の点検

②ヒヤリハットの共有化を図り、危険意識を高めよう。

- 従業員が集まる場所でヒヤリハット体験を共有



冬道の危険箇所の周知とスリップ事故防止の指導

気象庁の「気象観測データ」によると、年々路面が凍結する日が都市部で急増しています。愛知県(名古屋市区)では、路面が凍結した日は、二〇二六〜二〇二七年が二十日だったのに対して、二〇二七〜二〇二八年は三十二日と二・五倍も増えています。

路面が凍結しやすい危険箇所としては、日陰、橋の上、トンネルの出入口、河川敷の道路などが挙げられます。

このような危険箇所の手前では、十分にスピードを落とし、急発進や急ブレーキなど、急のつく操作は行わないことを指導しておきましょう。

また、昼間に気温が上がって雪が融けても、夜間の冷え込みで再び凍結するおそれがあります。朝晩は特に路面の凍結を想定し、いつも以上に余裕のある車間距離を保持しましょう。

冬用車両点検の実施と非常用車を搭載しよう

冬季の車両点検では、エンジンルームを中心に点検をするよう指導してください。

①バッテリー

バッテリーは寒さによって性能が極端に低下します。液量や比重、電圧の点検を行い、必要に応じて補充、充電を行います。

②エンジンオイル

低温ではオイルが固まりやすくなるため、粘度を確認した上で補充や交換をしておきましょう。

③ウインドウォッシャー液

冬の道路は視界が悪くなりやすくウォッシャーを使う機会が増えるため、補充をしておきましょう。

④スタッドレスタイヤ

表面溝の深さが新品の五十%以下にまですり減ったスタッドレスタイヤは、冬用タイヤと

して使用できません。残り溝の確認を怠らないようにしましょう。

以上の点検に加え、急な積雪やアクシデントに見舞われた時のために、タイヤチェーンはもちろん、ブースターケーブル、懐中電灯、けん引ロープ、作業用手袋、スコップなどを搭載しておきましょう。

ヒヤリハットを共有して事故防止に活かそう

運転中のヒヤリハット体験を、「危なかった」とすませるのではなく、メモを取るなど記録に残し、朝礼等で他の運転者に危険箇所を共有することで交通事故防止に活かしましょう。

ドライブレコーダーを搭載している事業所であれば、実際のヒヤリハット映像を食堂など社員が集まる場所で流して共有する方法も検討してください。